

令和3(2021)年8月20日

報道機関各位

足利市教育委員会 文化課

足利市制100周年記念特別展の実施について

1 趣 旨

本市で育み、引き継いできた芸術文化のルーツを本市ゆかりの名宝とともに紐解くことで、市民がわがまちの持つアイデンティティを再認識し、わがまちを誇る想い（シビックプライド）の醸成を図ることを目的とした標記事業の概要について報告いたします。

また、本特別展を通じて「歴史と文化のまち足利」の魅力を市内外に広く発信していきます。

2 事業名

「足利市制100周年記念特別展 戦国武将 足利長尾の武と美

—その命脈は永遠とわに—

3 内 容

文正元年（1466）に長尾景人（ながおかげひと）が足利荘に入部し、天正18年（1590）第6代頭長（あきなが）が北条氏に従属し小田原城で豊臣秀吉軍に敗れるまでの120年以上にわたり、歴代足利長尾氏は、この地に独自の価値観と美意識を作り上げました。その芸術文化そして知を重視する気風は今に受け継ぐ「歴史と文化のまち足利」の源流ともいえます。

本展では、足利市制100周年記念事業として、歴代足利長尾氏が愛した、多彩な芸術文化、そして足利学校へ受け継がれる学びの文化を紹介します。

4 主な出品作品

○狩野興以（かのうこうい）画「猿猴捉月図（えんこうそくげつず）」

制作年：江戸時代

寸法・形状等：縦128.5cm×横53.5cm 紙本墨画

所蔵：栃木県立博物館

解説：江戸時代、全国各地から多くの門人が集まった狩野派の中に足利出身の絵師がいました。それが狩野興以（?～1636）です。桃山時代から江戸時代初期に活躍した絵師で、江戸狩野派隆盛の基礎を築いた重要人物です。

○重要文化財「九州日向住國廣作」（号 山姥切国広）

制作年：1590（天正18）年[安土・桃山時代]

作者：堀川国広

寸法：刃長 70.3 cm 反 2.8 cm

銘：指表：九州日向住國廣作

指裏：天正十八年庚子貳月吉日平顕長

解説：足利城主長尾顕長のために国広が鍛刀し、かつて顕長が北条氏政から拝領した備前・長船長義の刀を写したものと伝えられます。国広の作刀の中で最も優れた一口といわれ、山姥を切ったとの伝説からこの号がついています。

○重要文化財「伏見版木活字（ふしみばんもっかつじ）」

制作年：江戸時代

寸法・形状等：縦 1.2 cm×横 0.8 cm～1.6 cm×高さ 2.0 cm

所蔵：圓光寺

解説：徳川家康は京都在住の三要(足利学校9世席主)に10万余の木活字を与えて『孔子家語』など6種類の漢籍を印刷刊行させました。足利学校に残る9個の「木活字」はこの木活字と同じもので、三要が足利学校に寄進したものです。圓光寺と足利学校の木活字が三要の縁で結びつき、初めて同時展示されます。

5 期 間

令和4(2022)年2月11日(金・祝)から3月27日(日)まで(38日間)

※休館日は月曜日(祝日、振替休日を除く)

6 場 所

足利市立美術館

所管課	発表者		担当者		
	職名	氏名	職名	氏名	電話
文化課	課長	柏瀬美奈子	館長	片柳 孝夫	0284-43-3131